

激しさを増す 豪雨災害

近年では地球温暖化等の影響によって、雨の降り方が大きく変わってきています。

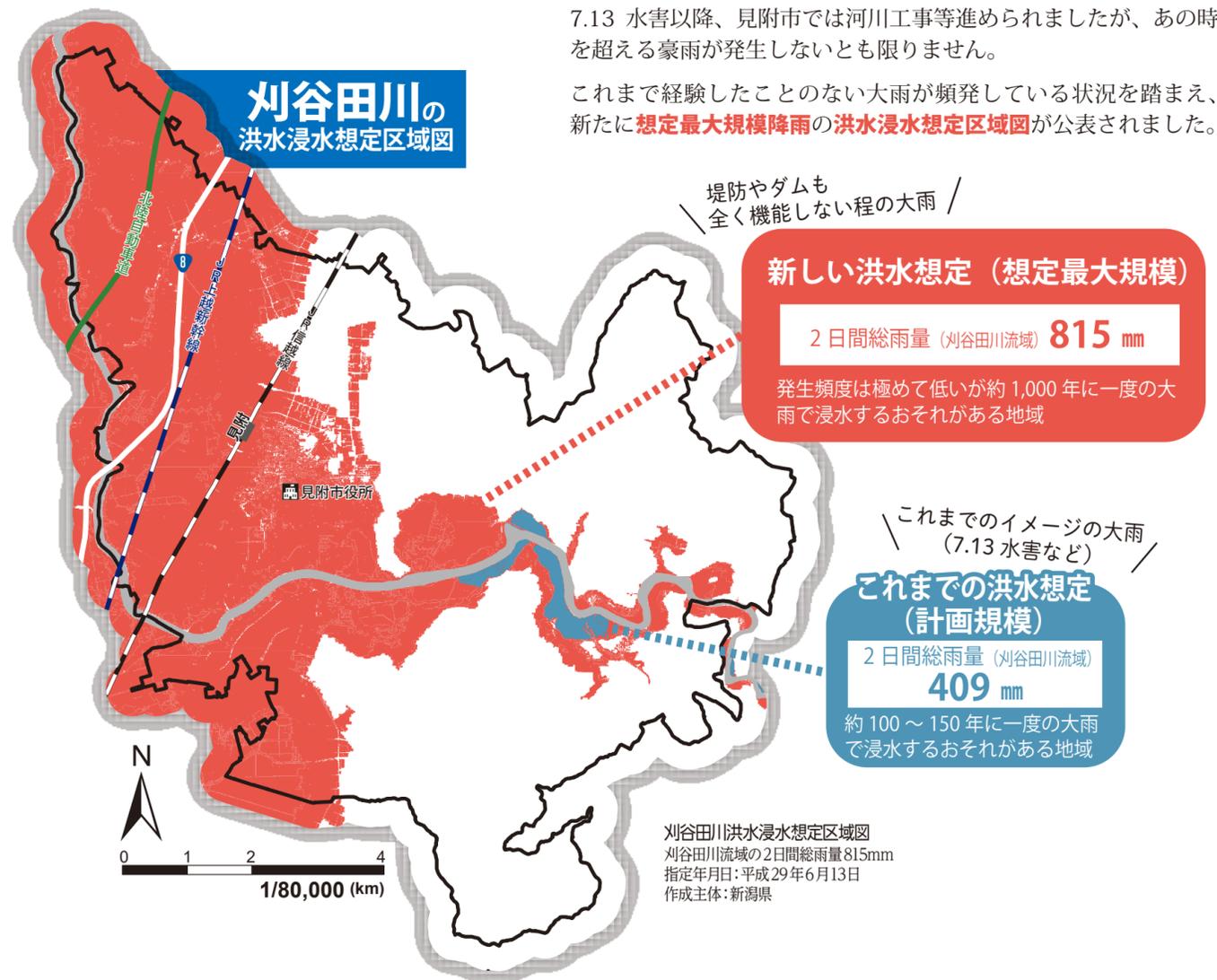
台風の巨大化や線状降水帯の発生による広域への断続的な大雨が頻発し、毎年、各地で観測記録を更新するような大雨が発生し、多くの方が犠牲になっています。



平成 30 年 7 月豪雨における岡山県倉敷市真備町の浸水の様子
(写真提供：国土交通省中国地方整備局)



千曲川（長野県中野市、10/13 撮影）
「令和元年（2019 年）台風 19 号に関する情報：空中写真（斜め写真）」
(写真適用：国土地理院)



7.13 水害以降、見附市では河川工事等進められましたが、あの時を超える豪雨が発生しないとも限りません。

これまで経験したことのない大雨が頻発している状況を踏まえ、新たに**想定最大規模降雨の洪水浸水想定区域図**が公表されました。

荒ぶりを増す自然災害から命を守るために、わたしたちも変わらなければなりません

荒ぶりを増す自然災害に対して、わたしたちは命を守ることができるでしょうか。災害で命を落とさないために、わたしたちも変わらなければなりません。

災害に向かい合っているのはあなただけではありません。見附市には子ども達、障害がある方、介護が必要な方など様々な方が暮らしています。被災地をみると、犠牲者の多くはそのような方です。

荒ぶる自然災害に対して見附市から犠牲者ゼロを目指すために、まずは、「自分の命は自分で守る」という原点に立ち返るとともに、見附市・市民が一体となり災害に向かい合うことが必要です

東京大学大学院情報学環特任教授 片田敏孝



1 早めの避難を躊躇しない！

避難の判断が遅くなるほど、行動の選択肢は少なくなります。
不安になったり、避難を迷ったら、ためらわずにまずは行動に移しましょう。
避難先は市の避難場所である必要はありません。**親戚・知人宅など安心して避難できる安全な避難先を決めておきましょう。**

2 命を守る行動を決断できるのはあなたしかいない！

災害のおそれが高まったとき、さまざまな情報が発表されます。しかし、その情報で避難などの命を守る行動を決断できるのはあなたしかいません。
自分の命、家族の命の問題と認識して、必要な行動を確認しましょう。

3 みんなで決めて、みんなで逃げる

避難の決断は、ひとりでは難しいものです。**避難を誘う声かけをしたり、一緒に避難する人を決めておきましょう。**また、地域にはひとりでは避難が困難な方もいます。助け合いながら避難するなど、みんなで逃げる方法も考えておきましょう。